



社 労 士 の コ ラ ム

ジョカツのススメ

わくわくネット 5

SDGs と女性活躍

こんにちは、社労士の高橋です。今やSDGsの文字をメディアで見ない日はなくなりました。テレビでも、コンビニエンスストアでも、あちこちでSDGsの文字を見ます。SDGsに関する報道や研修会も各種開かれています。世は正にSDGs元年の様相を呈しています。

さて、SDGsとは「持続可能な開発目標」のことで、より具体的には「この世界をより良くするために、2030年までに世界中が協力して解決したい17の目標」のことです。2015年の国連のサミットで決定されたものですが、この言葉をよく聞くようになったのは、2020年頃からだったと記憶しています。

17の目標の中で、女性活躍と強く結びついているのが「5 ジェンダー平等を実現しよう」と「8 働きがいも経済成長も」と言えるでしょうか。

どうしても資本力のある大手メディアや、大手チェーンストアでのSDGsを絡めた商業展開が目につき、SDGsについても「金儲けの手段」に見えることが多く、SNS等でも否定的な意見が目立ちます。

本来は17の目標を達成するための手段として、商業展開や商用利用も認められているに過ぎません。

2020年の初め頃にSDGsを取り上げた番組の中では、ある企業の社長が、社員に対して「わが社の業務内容、社員個人の業務内容でSDGsと関連のあるものを挙げ、克服すべき課題について意見を求めたい」と社員に投げかけ、ひとりの女性社員が「更衣室やトイレなどで、ジェンダー平等の実現のための課題があります」と投げかける場面がありました。それを見て、こういった取り組みが進めば、より良い勤務環境の構築の一助になるのでは、と思いましたが、実際には圧倒的に商業展開で「SDGsに取り組む企業の商品や株式を買って応援しましょう！」という文字ばかりが目立っているのが現状です。

長引くコロナ禍は、会社とそこで働く労働者の関係性も変えようとしています。「働きやすい職場」「女性が活躍できる職場」の意味も同様に変容していると言えます。SDGsは大きな扉です。

そこから先の「自分の会社ならではの勤務環境」の扉は自分で開ける必要があります。SDGsを機会として捉え、自社における女性が活躍できる職場環境について問い直してみてください。

山形県社会保険労務士会
特定社会保険労務士 高橋 新